アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ

No.162/2020 年(令和 2 年)7 月

「アンテナ・伝播研究専門委員会からのお知らせ」第162号をお届けします.

【1】2019年度下期表彰式報告

6月18日（木）オンライン研究会にて，2018年度下期AP研表彰式が開催されました．今回はオンライン表彰式でしたので，受賞者の名前を読み上げるのみとなりました．12月研究会で改めて賞状授与を行いたいと考えております．

受賞者の方々は，以下のとおりです．（敬称略）

- 2019年度活性化貢献賞(年間を通じて最多の発表を行い研究会活性化に貢献した登壇者)
  山口　良（ソフトバンク，発表8回）
- 2019年度下期若手奨励賞(35歳までの博士課程学生・社会人で2019年度下期に優秀な発表を行った登壇者)
  中嶋宏昌（三菱電機），佐藤彰弘（ソフトバンク）
- 2019年度下期学生奨励賞（35歳までの学部・修士課程学生で2019年度下期に優秀な発表を行った登壇者）
  江尻敬祐（東工大），寺田一貴（千葉工大），能城冬馬（静岡大）
- 2019年度AP研功労賞　退任されたAP研執行部，各種委員，AMT研委員など32名受賞

【2】 7月研究会報告

7月の研究会は，7月15日(水)～17日(金)にオンラインで実施されました．当研究会は，アンテナ・伝播研究会（AP），宇宙・航行エレクトロニクス研究会（SANE），衛星通信研究会（SAT）の3研究会合同の研究会でした．合計27件の発表があり，内訳は，SAT:7件（特別講演2件，一般講演5件），SANE:5件，AP:15件（チュートリアル講演1件，特別講演1件，依頼講演6件，一般講演7件），AP研依頼講演6件は，オーガナイズドセッション 「第2回電波伝搬モデリングコンペティション」として実施されました．オンラインでのコンペティション開催は初めての取り組みでした．AP研特別講演では，ソフトバンクの山口氏から「縦列走行V2V直接通信ドップラースペクトル」をテーマとして，AP研チュートリアル講演では，NTTの北氏から「無線ゾーン評価のための高周波数帯電波伝搬モデル」をテーマとして講演いただきました．自動運転，5Gに関連するテーマであり，非常に多くの方に聴講いただきました．今回の研究会もオンライン開催のため，参加者が各自のPCから聴講が可能になりました．連日50～100名程度の参加者があり，非常に関心が高い研究会であったと思います．

【3】 今後の開催案内

1種研としては，8月21日にオンライン開催，9月24日～25日にオンラインで開催します．２種研としては，8月24日にAMT研究会がオンライン開催，9月23日に企業学生交流セッションチュートリアルWS(電磁界解析の基礎･アンテナ測定基礎･企業におけるアンテナ伝搬研究開発事例)，9月11日にIEEE APS Tokyo Chapterワークショップ「IoTのためのアンテナ技術」が開催されます．9月研究会では，昨年度の引き続き２回目の開催となる，学生と企業との交流イベントを9月24日（木）に開催予定です．企業，大学双方の方々にとって魅力のあるものとすることを目指しております．今回は，初めての取り組みとなるオンラインでの学生ポスター発表，企業および研究機関における取り組みの紹介を行います．オンライン交流会では，学生と企業がオンラインで直接対話できます．多くの企業，学生の皆様の参加を期待しております．9月15～18日には，オンライン開催でのソサイエティ大会も開催されます．ふるってご参加お願いします．

【4】 副委員長の戯言

IEEE APS, IEEE IMS等の大きな国際会議が今年も開催されましたが，全てオンラインでの開催になりました．参加費が無料に設定されたことは，非常に勇気のある選択だと感じました．また，来年に開催を延期した国際会議も多くあるようです．

AP研に関係する多くの方々は，APSに参加されたのではないかと思います．オンラインでの開催では，対面での研究会と違って，日本等居住国からの参加になるため，リアルタイムで参加する場合は，12時間ほどの時差がある場合は，昼夜逆転なので，昼間の仕事に支障が出ますね．やはり現地参加したいと感じております．私が毎年参加しているAMTAも，今年はオンライン開催になることが決定しました．コロナの蔓延が早く終焉することを願うばかりです．

コロナウイルスの蔓延によって，何かとオンラインでの開催が多くなっています．AP研の大きなテーマである（個人的に考えています），全ての機器を無線で快適に繋がる社会を実現する必要性が，最も社会から期待されていると感じています．今後ますます，無線機器とAP研へのニーズが増えること期待したいと考えています．携帯通信については，基地局アンテナや端末が，海外製品で占められるようになっていますが，AP研の力を集結して，日本発の次世代通信機器，通信網の構築を進めていきたいと感じています．日本が最も得意とする技術などを集結して，日本の世界的な競争力向上をAP研として支援していきたいと（個人的に）感じています．

〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長　黒川 悟（AIST）
E-mail：ap_ac-chair@mail.ieice.org (AP研執行部のメールアドレス)
AP-NET：AP研の最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はAP研HPにて
AP研HP：http://www.ieice.org/cs/ap/jpn/